



一山陰と世界を結び
地域に貢献する
現代の寺小屋一



R5 年 2 月にインド国より頂戴したガネーシャ

団体の活動、セールスポイント

●中村元博士と中村元記念館

中村元博士(1912-1999)は、島根県松江市殿町出身の哲学者です。中村博士の業績はインド哲学や仏教学の研究を中心として論文著作は1500点にも及び、平成元年には「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民の称号を贈られました。博士は、それまで漢文からの翻訳でなされていた仏教研究を、よりブッダの時代に近い古代インドの記録にまで遡り、歴史上の人物としてのブッダの実像を明らかにされました。また博士は、ブッダについて後の時代に作られた宗教的な神話や伝説を取り除き、「人がどのように生きるべきか」を説いたブッダの言葉を、より多くの人に向けて、わかりやすい日本語に翻訳されました。また世界平和に向けた願いから、異なる文化を理解する必要性を説き、比較思想という日本では前例のない新しい学問分野を開拓されました。現在においても戦後日本を代表する学者の1人とされています。

中村元記念館は博士の生誕百年を節目として、2012年に開館いたしました。博士の3万冊を超える蔵書の一部や、手書きの原稿、愛用品などを展示公開し、博士の故郷である松江市民の皆様をはじめとして、博士をより知りたいと思う皆様の憩いの場を提供しております。



寄附を受けて取り組みたい事業
これまでに寄附を活用して実施した事業

●中村元博士の蔵書・資料の整理

中村元記念館には、博士のご遺族から寄贈された約33,416冊の蔵書の他にも、原稿や書簡、写真や手帳・日記などといった博士の膨大な資料や遺品を保存しています。より多くの方に博士の業績を知ってもらいたい、また、東洋思想文化の研究と普及、学術研究に寄与することを目的として、これらの資料や遺品の登録管理を進めています。

収藏品管理システムを用いた登録作業では、資料の名前や保管場所を登録するだけでなく、博士独自の分類秩序や、資料の原配列を尊重した登録管理を行っております。整理された資料は、記念館企画展示や、書籍発行等で広く一般に公開しています。

●特別展の開催

「臨濟宗中興の祖 白隠禅師展」
令和 6 年 10 月 1 日(火)～12 月 15 日(日)

厳しい修行と悟りの深みから生み出された秀逸なる白隠禅師の墨蹟(京大で開発された高精細スキャニング技術を用いた複製画)の展示と、博士が白隠禅師について「禅」という側面の他、医僧としての側面にもスポットを置いて研究していた形跡が見て取れる資料(博士の遺した蔵書やメモ、日記など)から、博士の白隠禅師についてのアプローチに関して迫る展示もおこないました。



団体の目標

- ① 「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られた中村元博士を顕彰し、その業績を蔵書・愛用品などを通じ、多くの皆様にご紹介していただくことを目標としています。
- ② 松江市に寄贈された博士の蔵書約 34,000 冊を、散逸させることなく次の時代に伝えるため、時代に合わせ適切に管理します。
- ③ 歴史的人物としての博士の姿を知っていただくべく、博士の遺された直筆原稿、手記などから、博士ご自身の人・思想についての研究を進めます。
- ④ 戦後日本を代表する学者として博士が開拓された、インド哲学、仏教学、比較思想、歴史、文学などを中心として公開講座・講演会などを実施いたします。
- ⑤ 博士がご自身の研究に託された「世界平和」について学問を通じて考えていきます。



特定非営利活動法人

中村元記念館東洋思想文化研究所

理事長 清水谷 圭

〒690-1404

島根県松江市八束町波入 2060 番地

松江市八束支所2F

TEL 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693

info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

<https://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/>

団体から寄附者への PR

中村元記念館では開館以来、ご遺族から寄贈された蔵書の整理作業を進めてまいりました。そして、令和 7 年 3 月 31 日時点で、33,416 冊の蔵書の登録・公開を達成することが出来ました。これもひとえに今まで活動を見守り、支援をしてくださった皆様のおかげです。

また、平成 27 年に寄贈した博士の蔵書と同じく、令和 7 年 3 月、博士の遺品(原稿や書簡、写真や手帳・日記などといった資料)について、松江市へ寄贈する運びとなりました。

今後は、蔵書同様これらの遺品についても、松江市の財産として永く保管し、多くの皆様に活用していただけるように、引き続き中村元記念館で適切に整理・保存し、登録作業を進め、展示や各種イベント、出版などにより公開していきたいと思っております。

収藏品管理システムを用いた登録作業では、資料の名前や保管場所を登録するだけでなく、博士独自の分類秩序や、資料の原配列を尊重した登録管理を行っております。

博士の資料は蔵書以上に膨大にあり、形も大きさも種類も異なる為、登録作業は難航を極めます。また、貴重な資料を未来に残していくための保守費はまだまだ必要です。

今後も博士が残された貴重な資料を丁寧に調査し、知の継承に貢献できるよう力を注いでまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。